行　政　視　察　報　告　書

所属委員会	川岸学園整備特別委員会	委員氏名	藤森　弘
行政視察の名称	【信濃町立信濃小中学校】行政視察		
日　　程	令和７年１２月１９日(金)		
視察都市名等	信濃町		

1. 視察の目的

義務教育学校である信濃町立信濃小中学校における、小中一貫教育の運営現状、独自のカリキュラム編成、および地域連携の取り組みについて調査する。特に、9 年間を見通した教育課程の編成や、異学年交流、ICT 活用の実態を把握し、岡谷市における「川岸学園」整備および今後の学校教育の充実に資することを目的とする。

2. 視察対象の概況

- **学校概要:** 平成 24 年に施設一体型小中一貫教育校として開校し、平成 28 年に義務教育学校へ移行。
- **児童生徒数:** 371 名（令和 7 年 4 月 1 日現在／前期課程・後期課程計）。
- **教育目標:** 「信濃町に誇りをもち、次代を担う人材の育成」～学びに向かう力と温かな人間性の涵養～。
- **重点目標:** 「明日もまた来たくなる学校（楽校）づくり」。
- **施設特色:** ラーニングセンターやティーチャーズステーションなど、教科横断・学年横断的な交流を促す配置となっている。

3. 視察先での特記事項（当日の質疑応答事項等）

- **カリキュラムの柔軟な運用:** 初等部（１～４年生）・高等部（５～９年生）で授業時数の前倒しは行わず、各学年の学習指導要領に沿って運営されている。
- **ICT 活用:** タブレット端末や共同編集ツール（FigJam 等）を活用しているが、ICT はあくまで「手段」と位置づけ、教科書の読み取りなど基礎学力の定着も重視している。
- **支援体制:** 「アシストルーム」「中間教室」を設置し、トータルコーディネーターや特別支援コーディネーターを中心に、学校・家庭・行政・福祉が連携した支援体制を構築している。
- **地域連携:** 「ふるさと学習」として、地域講師による体験学習（もち米作り、スキー教室等）を実施し、将来的な地域定着・U ターンも見据えた郷土愛の醸成を図っている。

4. 評価・感想

本視察において最も印象深かった点は、時間割の編成における柔軟性と合理性である。 通常、前期課程（小学校）は 45 分、後期課程（中学校）は 50 分授業とするのが一般的であるが、同校ではこれを打破し、1 年生から 9 年生まで統一した「45 分授業」を採用している点に最大の特徴があった。

この統一により、全校一体の授業運営が可能となり、教科専門の指導教員が小中の垣根を越えて、時間割の制約を受けることなく乗り入れ授業を行える環境が整っ

ていた。これにより、少人数かつ専門性の高い授業が実現できている点は非常に魅力的だった。

また、45 分授業によって生じる端数の 5 分間を積み上げ、「朝の学習（25 分）」という特別な枠を確保している点も特筆すべき点である。これが自主自立学習の導入として機能し、個別最適な学びの環境構築に寄与していた。

さらに、2 時間目と 3 時間目の間に 20 分間の長めの休憩時間（業間休み）が設けられており、児童生徒のリフレッシュのみならず、教科担任の教室移動や授業準備に時間的な余裕を持たせている点も、学校運営上の工夫として感心させられた。

5. 岡谷市政に反映すべき点

- **日課（校時表）の統一：** 今後整備が進む川岸学園において、小中の教員が円滑に相互乗り入れを行うためには、信濃小中学校のように校時（チャイム）を統一することが極めて有効である。特に 45 分授業への統一は、教員配置の柔軟性を高める方策として検討に値する。
- **「朝の学習」等のモジュール時間の活用：** 基礎学力の定着や個別学習の時間を確保するために、日課表の中に帯時間を設ける工夫を取り入れるべきである。
- **施設設計の工夫：** ラーニングセンターのように、児童生徒が自然と集まり、異学年交流が生まれるような共有スペースの確保を施設整備計画に反映させる必要がある。

6. 岡谷市政として取り組んだ場合の課題・問題点

- **授業時数の確保と調整：** 小中の授業時間を統一する場合、学習指導要領で定められた標準授業時数をどのようにクリアするか（特に中学校課程における 50 分→45 分短縮分の補完）、詳細なシミュレーションが必要となる。
- **教職員の意識改革：** 校種を超えた指導体制（乗り入れ授業）を定着させるためには、小学校・中学校教員の指導文化の違いを乗り越え、チームとして機能するための研修や意識共有が不可欠である。
- **地域クラブへの移行：** 信濃町同様、部活動の地域移行を進めるにあたっては、受け皿となる団体の確保や指導者の質、安全管理面での課題整理が必要である。

7. 視察先から受けた印象・特記事項

- **「町に誇りを持つ」姿勢：** 学校教育目標にある通り、児童生徒だけでなく教職員からも「信濃町」への愛着や誇りを感じ取ることができた。9 年間という長期スパンで子どもたちの成長を見守る体制が、安定した人間関係と自己肯定感の育成（「自主」「友愛」「克己」）につながっていると感じた。
- **開かれた学校：** 地域住民や保護者が参画する「学校運営協議会」や「しなの学校応援団」の活動が根付いており、学校が地域コミュニティの核として機能している様子がうかがえた。
- **自然環境の豊かさと木質教室の温もり：** 北信五岳や野尻湖を望む雄大な自然環境は、四季を通じて子供たちの豊かな感性を育むもう一つの〝楽校〟だと感じた。木材をふんだんに使用した校舎は木の温もりと開放感にあふれ、児童生徒が安心して学習や交流に取り組める、潤いのある恵まれた教育環境であり、こうした点は川岸学園にも反映させたい、と感じた。

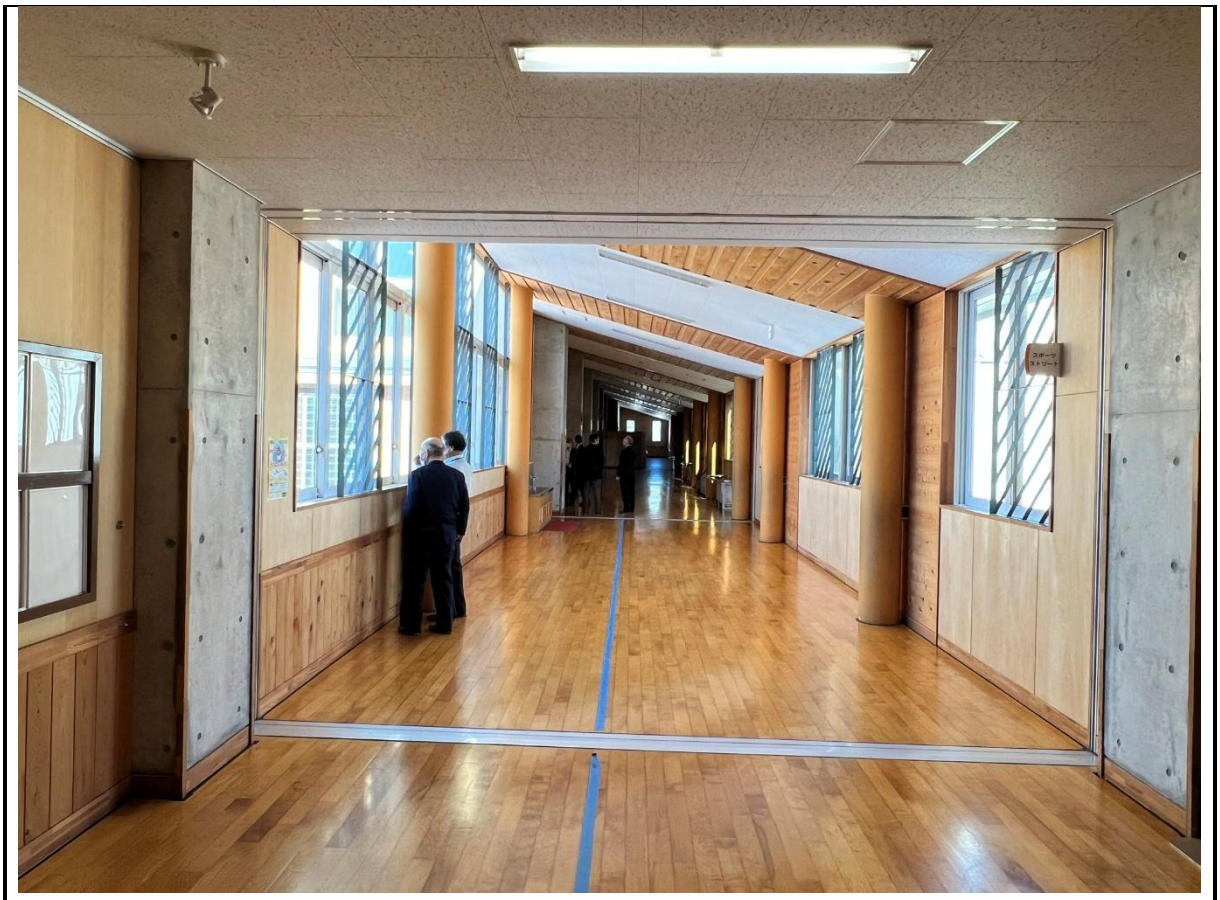
行　政　視　察　報　告　書

行　政　視　察　報　告　書

信濃小中学校の教育課程
前期課程(小学校)
自己調整力
後期課程(中学校)
1年
2年
3年
4年
5年
6年
7年
8年
9年
入学式
ふるさと学習
初等部修了式
同度トレッキング
5・7年合同キャンプ
立志式
卒業式
職場体験学習
小中一貫9年間カリキュラム
～一人ひとりの学びをつなぐ学習過程の創造～
◆豊かな自然の中で、体験活動を通して、基本的な学習習慣や人間関係力を培う
◆教科担任制で専門的な学習を通して、教科の本質に迫りながら主体的な探究
◆自らの生き方を見つめ、夢の実現に向けて、進路を切り拓く力を培う
初等部 担任と支援員のTT指導 一部教科担任制
高等部 TT指導、個別支援体制

行　政　視　察　報　告　書

行　政　視　察　報　告　書

行　政　視　察　報　告　書

行　政　視　察　報　告　書